

令和2年度 課題研究 実践レポート

選択項目	①実態把握 ②授業計画 ③教材教具 ④授業展開 ⑤学習評価 ⑥情報提供		
実践名	くらしに役立つ保健体育 ～教科書を活用した授業実践～	所 属	窯業科3年（副担任）
		職・氏名	教諭 津村 理子

1 実践の概要

選択の経緯は、『くらしに役立つ保健体育』が配布されたからである。今後、評価が導入されたとき、この本（教科書扱い）がどのような方法で活用できるのか。また、学年の実態を考慮してこの本を活用するには、どのような授業展開ができるのだろうかと考えた。さらに、平成31年2月に学習指導要領が改正されたので、以下の点も踏まえながら授業を進めることとした。

I 保健

健康・安全に関する事項について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 心身の発育・発達、障害の防止及び疾病の予防等の理解を深めるとともに、健康で安全な個人生活及び社会生活を営むため目的に応じた技能を身に付けること。
- イ 健康・安全に関わる自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。

3 指導計画の作成と内容の取扱い

（1）指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- ア （前文略）…体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自他の課題を見付け、個々の生徒の障害状態等に応じてその解決の活動の充実を図ること。（・・・以下続く）
- イ 2の段階の内容の「A体づくり運動」、「H体育理論」及び「I保健」については、3学年間にわたって取り扱うこと。

特別支援学校高等部学習指導要領 【保健体育】より抜粋

2 実践の内容

保健の授業では、生徒の記憶に少しでも残り、実生活に役立つ時間になることを願って進めている。生命やからだに関係する専門用語が多いため、学習に抵抗を感じさせないように用語の説明をし、ワークシートの活用、テスト方式で確認するパターンで授業展開した。通常学級にやや近い形の授業であるため、1年次には、一斉指導の際にはSTの先生方のサポートが必要不可欠であった。

（1）生徒の反応と様子

1年次から、教師が教科書を読み、生徒は必要部分にマーカーでラインを引くように指導した。強調する部分を色分けする学習を行った。学年が上がると、この作業は速やかに行うことが出来るようになった。また、ラインを引いた重要部分からテストに出題することを伝えているが、集中に欠けたり、「分かりません。」「もう一度お願いします。」と言えなかつたりする生徒には促しが必要であった。さらに、単元の始まりに、昨年度と同様の内容で20分程度の振り返りテストを実施したが、これは、昨年の知識がどの程度、積み重ねられているかを確認するための位置付けとし、知的障害をもつ

生徒の苦手分野である『記憶』を呼び戻すための時間とした。単元の最後には、25 分間、100 点満点のまとめテストを実施した。配分は1問3点×32問、1問4点。4点の部分は感想を記入してあれば良い事とした。記号で答えなさいという設問では、言葉で答えてしまった生徒が1名いたが、他の生徒は問題を読みとって、解答出来た。最高点100点。最低点43点。平均79.3点であった。平均点が高めに出了のは、記号選択をさせた影響と考える。

保健体育は、日常には、なじみの薄い病名や身体に関する専門用語が多く、生徒の理解を深めるには、難しい面があるため、なかには混乱する生徒もいた。

（2）配慮すべき点

今後、数値で評価し、成績を示す場合の留意点がいくつかある。例えば、テストの得点だけに縛られることがないような配慮や積極的に発言する生徒が『思考・判断・表現』や『学びに向かう力』に優れているのではないこと、テストの点数が高い生徒が『知識・技能』に優れているような評価をしないように配慮したい。現在の小中学校では、すでにこの状態に陥っており、生徒の意欲の低下が見られる。数値化する方が目に見えて分かりやすいし、本人や保護者に説明しやすいが、人の価値は点数だけ決まるものではないのではないかと感じている。

生徒のなかには、幼い頃からこれまでの経験により、学習に対する自信がなく不安を抱える様子が見られる。学習の本来あるべき本質は、できなかったことができるようになったり、知らなかったことが分かったりすることではないだろうか。単元担当の際に心掛ける言葉として『学んだことが生活に役立てることができる大人になってほしい』という願いを繰り返し伝えてきた。特別支援学校の良さである、個々の成長に合わせた目標を設定して、それに即した指導を行った結果が適切な評価につながるように生徒の意欲が高まるような授業展開を目指したい。

【実際の問題用紙】

令和2年度 3学年 心とからだ⑥ まとめテスト

2020年7月8日(日) 満点
1問4点×24問+1問2点×2問 合計100点満点

科 名前

1. 次の()に当てはまる適切な 数字を書きなさい。
経緯から赤ちゃんの誕生まで、約()ヶ月である。また、標準の身長は約50cm、
体重は、約()kgで誕生する。

2. 思春期と健康について、次の()に当てはまる言葉を下の語群から選び、記号で答えなさい。
思春期は、男女ともに発達に()が促される。また、男女とも()のことが現れるようになる。
そして、大人になる()の準備が始まる。

語群 ア: 体 イ: 男性 ウ: 心 エ: ときどき オ: 天気

3. 思春期と異性への関心について、次の()に当てはまる言葉を下の語群から選び、記号で答えなさい。
異性を好きになってからアプローチを仕方には()がある。大切なことは相手の()のことをしてはいけない。また、相手の()を考えるとアプローチする。

語群 ア: 個人差 イ: 気持し ウ: お互い エ: 離れる オ: 愛情

4. いろいろな情報と『ワッ!』ポイントについて、次の()に当てはまる言葉を下の語群から選び、記号で答えなさい。
自分勝手な()や人の噂があることを()になる可能性があるため、触ったり、待ちにせたりする行為は絶対にやめてはいけない。社会人として、()がある行動をするべきだと知ることがある。

語群 ア: 責任 イ: 経路 ウ: 行動 エ: 犯罪

5. 結婚と妊娠・出産について、次の()に当てはまる言葉を下の語群から選び、記号で答えなさい。
将来、結婚し、子どもをもちたい。どのような生活を築くかは、パートナーとよく相談して、()で決めることが大切である。子どもをもちたいと考え、()をするのはパートナーと合意(許可)が合ってから行うことであり、さまざまな知識がなければならない。女性の卵子と男性の精子が受精すると妊娠(妊)します。妊娠するが女性の子宮の中で赤ちゃんが育つ。妊娠から、約()週(約280日、10か月)頃に赤ちゃんが誕生する。

語群 ア: 40 イ: 自分自身 ウ: 性行為(セックス) エ: 世界平和 オ: 3000

6. 性感染症(STD)について、次の()に当てはまる言葉を下の語群から選び、記号で答えなさい。
()は、1期(初期)の下にツボツボした肉のかたまりから、4期の動脈硬化に発展することがあり、じわじわと死に至る感染症。尖圭コンジロープは、性器や肛門の周囲に()ができる。性器クラミジアは、性器に痛みや腫れが出るが()で気づかないことがある。淋病(淋菌感染症)は、最早晩に()で痛みが出たり、()に感染が広がり、後天性免疫不全症候群(AIDS)は、HIVウイルスの感染で発症する。感染方法は、()によるものがある。これらの感染症は、自覚症状がなければじわじわと悪化する。性感染症は、必ずパートナーと一緒に病院へ行き、きちんと治療することが必要である。

語群 ア: 梅毒 イ: 無症状 ウ: 性行為 エ: 口紅 オ: 尿道

7. 児童虐待防止法について、()にあてはまる 数字や言葉を書きなさい。
児童虐待防止法は、()年(平成)年()に制定された。児童に対する()の防止、
早期発見、保護を定める。親権の制限を盛り込み、児童福祉司の権限・権力が強化された。
自分の子どものしつけだからと言って、何をしてもいいわけではない。児童虐待に当たる行為の例として、たたき、蹴る、殴る、何日も食事をとれない、夜に眠らせない、何日もお風呂に入らせない、熱があるのに病院に連れて行かない、「バカ」「死ね」などの暴言や「家から出て行け!」こんなことできないのか!など人格を否定し、精神的な苦痛を与えた場合など、子どもを傷つける行為はすべて犯罪に当たります。

8. ストーカー規制法について、()に当てはまる 数字や言葉を書きなさい。
ストーカー規制法は、()年(平成12年)に制定された。ストーカー行為等を規制、処罰し、被害者を()するための法律である。ストーカー行為とは、特定の人に対する特定(好き)の感情、またはその対象がかなわなかったことに対する感情(憎しみ)の感情により、つきまとい、まづき、押し付けや無言電話などをする人のことである。ストーカーの特徴として、異常なほどの執着心、支配欲に基いた行動で、なかなか離れがたく、行動が予測しにくく、行動が予測しにくく、被害者が小さいうちからめくられることが特徴(かんきょう)である。また行動は、以下の通り、この項目は犯罪対象になり、警察に通報される。
① つきまとい ② 待ち伏せ ③ 押し付け ④ 監視、つきまとい
⑤ 面会・交際の要求/執着・執着 ⑥ 無言電話、連続した電話やファックス/持物の送り
⑦ 被害を偽る ⑧ 性的暴行・性的虐待(レイプ行為)

9. LGBTについて、()に当てはまる 言葉を書きなさい。
「セクシュアル・マイノリティ」は、現代の日本の多様な価値観において「同性愛者」「トランスジェンダー」など、社会的に少数派であると自認する人々を指す。同じ人間としての理解を深め、差別のない社会を目指して活動している人々がいる。()や偏見のない世の中であるために、みなさんと同じ生活を送る人間だと思ってくれるといい。(トランスジェンダーという活動団体もある)

10. 児童手当について、()に当てはまる 数字を書きなさい。(1問2点=4点)
児童手当は、()歳から()歳まで支給される。赤ちゃんが誕生したら、自分が住む市区町村や職場へ手続きに行く。

3 実践の振り返り（今後の「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けて）

『くらしに役立つ保健体育』が配布され、重要な点が全て網羅されておりポイントを絞って指導するためには、教師用図書（赤本）が欲しいと感じている。一方で、教師用図書は画一的な指導になる怖れがあることも考えられ、一長一短である。今後も学習指導要領の改正点を確認するとともに新型コロナウイルス感染症防止対策・新しい生活様式に注視しながら、生徒達には、本校の研修テーマである「主体的・対話的で深い学び」に向かわせたい。

令和2年度 課題研究 実践レポート

選択項目	①実態把握 ②授業計画 ③教材教具 ④授業展開 ⑤学習評価 ⑥情報提供			
実践名	数学の主体的な学びにつなげる記録・評価の工夫	所 属	農業科3年（副担任）	
		職・氏名	教諭・西脇 功二	

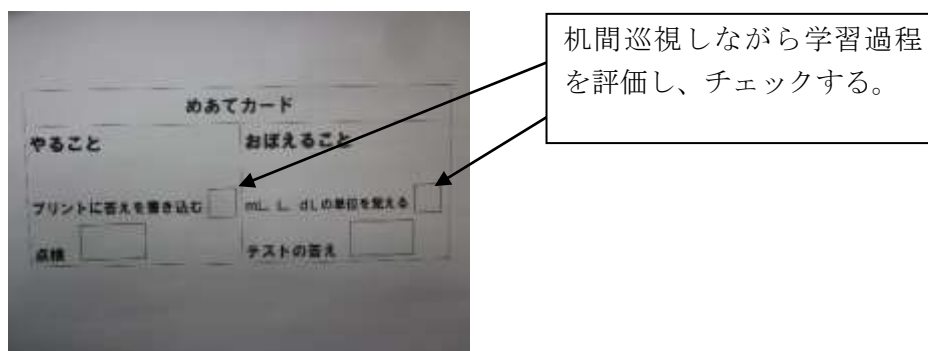
1 実践の概要

本学年は1学年より教科等横断的な学習の視点で数学、作業学習を同じ担当者が受け持ち、数学で学んだ学習を作業学習で生かす、実践することを念頭に学習展開をしてきた。

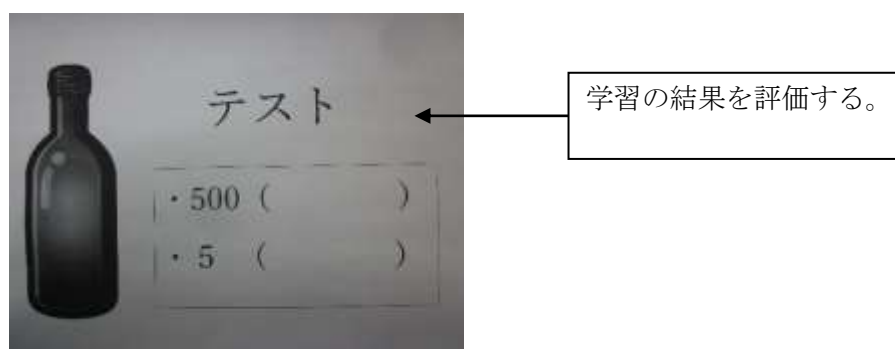
本学科では水の計量、土の配土などで容器を用いて計量することが多く、生徒にはぜひ身に付けてほしい力として体積の学習の単元で「水のかさ」を扱った。学習を進めるにあたり、生徒が主体的な学びができるように、評価について理解度を観察と小テストによって適宜評価し、生徒にとって分かりやすく、参加しやすい評価の実践を行った。

2 実践の内容

(1) 学習の見通しをもたせる。(活動、到達目標の提示)



(2) 小テスト（実態把握、理解度の評価）



3 実践の振り返り（今後の「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けて）

今回の実践では作業学習とのつながりを意識させることで学習の興味関心を高め、学習の動機付けを行った。また、学習評価の方法を工夫することで学習過程の評価と学習の結果についての評価がおおよそできたと考える。しかし、今回の実践では十分な時間の確保や繰り返しの学習ができていないこともあり、生徒に定着したかどうかは検証できていない。

実践を振り返って、生徒の個別指導の仕方や合理的配慮などもSTと共有しながら、授業改善を行うことで、より深い学びへの実践ができると考える。

令和2年度 課題研究 実践レポート

選択項目	①実態把握 ②授業計画 ③教材教具 ④授業展開 ⑤学習評価 ⑥情報提供		
実践名	外部支援で見られる主対深	所 属	1 学年所属
		職・氏名	教諭・山田 みゆき

1 実践の概要

この実践レポートの課題が課せられたとき、校内で授業に入っていない立場として、外部支援で各学校を訪問する中で何ができるのかを考えたときに、複式学級での授業のことが頭に浮かんだ。訪問先でも授業に直接携わることはできないため、自分で実践できることはないが、本校の先生方に情報提供することで何かの参考になればと思いこのような内容になった。

2 実践の内容

本校が携わっている学校で複式学級があるのは、今金町立種川小学校、せたな町立久遠小学校、せたな町立瀬棚小学校、せたな町立若松小学校、八雲町立熊石小学校である。担任の先生一人に対応している学級もあれば、支援員が入ってサポートしている学級も多いように思われる。

3 実践の振り返り（今後の「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けて）

今まで単式学級で学校生活を送ってきた子ども達が新しく複式学級になることは、それなりの戸惑いがあるだろうと思われる。それが次年度に予想される場合、先生方は先を見据えて、できる限りの布石を打っている。自分達で考えて判断して動かなければならないことが増えていくことを子ども達に少しずつ意識させている。

あるサイトには、複式学級での授業のメリットとして、「教師が直接指導できない間、子どもたちで共有や教え合う姿が見られる。」とある。別なサイトには、「『教えることは、最良の学習法』といわれるが、生徒自身が他の生徒に教えることによって、ただ教師から受身的に教えられているだけでは生まれなかったであろう確かな知識・知恵が生徒に生まれたり、定着することがある。また担任が一方の学年の指導をしている時に、もう一方の学年は自分たちで学びを進める、といった自主的な学習習慣が身につく（自主性）。」とあった。

通常の学級に限らず、特別支援学級においても複式学級の場合が多く見られる。一つの障がい種の定員8人の1クラス開設なのでこの現象はよく見られる。さらに、学年の差が大きいことも多い。システム的なことでどうしようもないことなのだけれど、直接携わる先生方の指導の下、一長一短ある中でも子ども達はたくましく育っていくのだと再確認した。その中で自分ができることを微力ではあるが今後も行っていききたいと思う。

令和２年度 課題研究 実践レポート

選択項目	①実態把握 ②授業計画 ③教材教具 ④授業展開 ⑤学習評価 ⑥情報提供		
実践名	様々な傷病についての情報提供について	所 属	2 学年（学年付）
		職・氏名	養護教諭・橘 晴美

1 実践の概要

保健室の来室者は、「気持ちの抑うつ状態や過度の不安」や「頭痛や腹痛等内科系の不調」「軽度の創傷」などの来室者が多く、寄宿舍生活においても、身体の不調を抱えているものが多いと引き継ぎを受けている。

その中で、特に今年度は「新型コロナウイルス感染症」の流行ということもあり、いつまでこの状態が継続されるのか先が見えない中ではあるが、対応するに当たり生徒や指導者に対していかに最新の情報提供を取り入れていくのが日々の課題と考えた。

2 実践の内容

生徒対応で日頃から心掛けていることは、「生徒の自己管理能力を高める育成」ということだ。3年後には社会人として生活していく中で、小さなけがや症状でも自分で原因を考えて再発防止ができるとともに、自分の身体を自分でケアする力を育みたいと願いながらの対応を心掛けている。そうするためには、入学時の保健調査や医師の診断書、その他指導者の方々からの情報を踏まえ、自分なりに最新の情報提供ができるように準備をし、提供までいかなかったかもしれないが、話の中に取り入れ、質問に答えてきた。また、「新型コロナウイルス感染症」の発生・感染拡大を受け、学校の感染症対策を見直し、感染を防ぐべく情報を収集し発信してきた。

(1) 感染症対策のポイント

- ア 基本的な感染症対策の徹底
- イ 日常の健康管理や発熱等の風邪の症状が診られる場合の対応
- ウ 適切な環境の保持
- エ 学校行事等における感染対策

3 実践の振り返り(今後の「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けて)

今後も、生徒の気持ちに寄り添えるような情報の提供、発信を保健室からしていけるよう努力していきたいと考え、「新型コロナウイルス感染症」に対しても集団感染を防ぎ、被害を最小限に抑えるために予防啓発や対応の在り方について検討を重ね情報提供をしていきたいと考える。

令和2年度 課題研究 実践レポート

選択項目	①実態把握 ②授業計画 ③教材教具 ④授業展開 ⑤学習評価 ⑥情報提供				
実践名	食に関する情報発信の工夫	所 属	3年（学科付）		
		職・氏名	栄養教諭・小笠原 友理		

1 実践の概要

学校給食を生きた教材・手本になるように献立を提案し、四季や地場産物、行事食、外国の料理等を取り入れながら「食に関する指導の年間指導計画」に沿った情報提供を行えばよいのか、発信の方法について考えた。

2 実践の内容

栄養教諭は表1のように食に関する情報発信を実践している。

内訳 発信の方法	① 学級活動	② 日常生活の指導	③ 全国学校給食週間	④ 保護者	⑤ その他
掲示物	○	○	○		
アナウンス			○		
配布物			○	○	○

表1 食に関する情報発信の方法

- ・学級活動・・・「今日の給食の献立を知る」を意識付けできるように、一膳配食の並べ方や栄養ごとに色を塗り、毎食給食関係掲示板に掲示した。(図1)
- ・日常生活の指導・・・校内ポスター掲示物を作成した。
- ・全国学校給食週間・・・委員会と協力してリクエスト献立や全校集会でのお知らせ、給食ニュース(保健委員会から情報発信)も取り入れ、週間後振り返りシートの実施をした。(図2、3)
- ・保護者・・・毎月郵送する給食献立表の通信に、ホームルーム掲示と同じ食指導を掲載し、意図的に学校と家庭での共通情報とした。(図4)
- ・その他・・・町内のつながりとして、広報誌に実際に給食提供したメニューの献立を提案した。(図5)

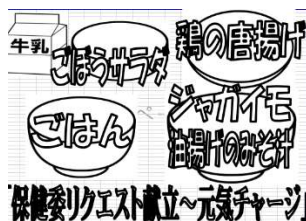


図1 献立表

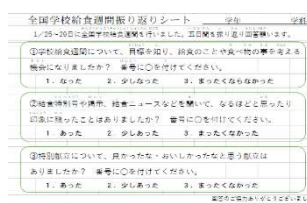


図2 振り返りシート



図4 共通情報

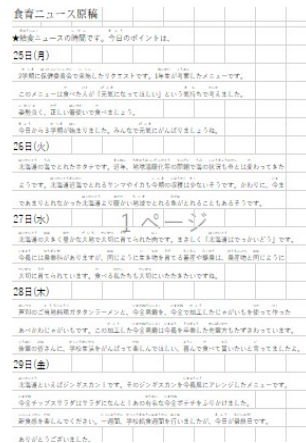


図3 給食ニュース



図5 広報掲載原案

3 実践の振り返り（今後の「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けて）

計画的に情報を発信し、情報の内容により発信の方法(目で見える情報、耳で聞く情報、繰り返し読むことができる情報)を変えることで、興味関心をもってもらうことができた。今後、さらに保健委員会との活動の機会を増やし、情報発信をしていきたいと思う。